

佐保会兵庫県支部だより

第34号

佐保会兵庫県支部事務局
〒651-2124
神戸市西区伊川谷町潤和1425-15
TEL・FAX 078-97510063

新しい節目に ― 食べ方は生き方 ― 織部ミチ子 (S29家食)

二〇一〇年、奈良の平城遷都一三〇〇年は一つの節目ですが、人生には入学・結婚など様々な節目があり、節目の行事には食と関係のあるものも多くあります。

21世紀も10年目の節目を迎えましたが、自然界では地球温暖化による気候異変・豪雨による洪水やハイチ、チリなど次々に起こる大地震、社会的には戦後60年初めての政権交代、また経済不況、失業者の増加、就職難など大きな変動

や変化が見られました。人間はこのような大きな変動や変化に対応し、対処して生きて行かなければなりません。自然界の大災害や社会的、経済的な影響で生活難に陥った時、人間が最初に求めるものは水や食べ物で、生きていく生命維持に必要なものです。食は人間が生きるための本質的なものであり、生活の基本でもあります。

そこで食について私の考えを少し述べます。食は人間が生まれ、死に至るまで欠くことのできないもので、毎日三食、一年三六五日、一生食べ続けていますが、その食べ方が問題になります。まず、乳児から幼児までは、親・大人の責任において健康で成長していくように食事を与えて育てる。小学生になると食に対して興味や関心をもたせ、自分で食を選び食べるように親や学校などで教育し導いていく。青年期から以後は自分の責任において健康を管理しながら食を選び食べるようにする。高齢期になると体力・健康維持を考え、長く自立生活ができるように食を選び食べることが大切だと思います。

次に毎日の食事は、栄養のバランスを考え、年齢に応じた食事をめやすに、安全で安心な食物を選び、美味しく楽しく食べることに。これは健康・体力の増進や維持とともに治癒力・免疫力を作る要素ともなり、病気の予防につながると思います。また、美味しいものや珍しいものなど食べることは精神的な満足や新しいエネルギーを得て元気になり、人生の夢や希望に向かって心豊かに生きて行くことができるでしょう。

このように食は生きることであり、食べ方は生き方につながっていくと思います。食は時代の変遷と共に変化し到達点がなく奥の深いもので、毎日の生活に実行しなければなりません。これからも私は食について興味、関心を持ち探求し、食べ方を考えて行くことが生き方の一つになると思います。奈良女子大学で食物を専攻し今日まで細やかに学んできたことを感謝しています。



「悠久」染色(ろうけつ染) 建林 章子 (S38家被)

平成22年度 佐保会兵庫県支部総会

平成22年5月8日(土) 楠公会館 菊水の間

卒寿のお慶び

坪根	ミキ	様	(S16	B理)
大路	涼子	様	(S16	保)
堀	ナツ	様	(S16	B家)
丁子	はつみ	様	(S16	B家)
伊賀	正子	様	(S16	A家)

卒後55年のお慶び

小島	敏子	様	(S30	理物)
五辻	紀代子	様	(S30	文国)
久野	禮子	様	(S30	理物)
中川	圭子	様	(S30	理化)
北村	迪子	様	(S30	理数)
月森	坤子	様	(S30	文国)
位田	方子	様	(S30	家被)
永尾	照美	様	(S30	文国)
大村	道代	様	(S30	文英)
中西	博子	様	(S30	文英)
多賀谷	深雪	様	(S30	理物)

哀悼

尾崎	裕子	様	(S60	文教)	H20.11没
溝淵	典	様	(S17	理)	H21.3.17没
桑名	恵子	様	(S47	文社)	H21.5没
近藤	房子	様	(S6	文)	H21.5.10没
宅見	まさよ	様	(T13	理)	H21.5.11没
小畑	喜美代	様	(S26	文体)	H21.6.1没
渡辺	るい	様	(S15	家)	H21.8.21没
高橋	テル	様	(T14	保)	H21.9没
高見	秀子	様	(S26	理)	H21.9.18没
上西	和子	様	(S26	文体)	H21.11.25没
米山	喜代子	様	(S8	家)	H21.12.19没
堤内	百合子	様	(S31	文体)	
皆川	總子	様	(S12	理)	H22.1.21没
増田	千代	様	(S12	家)	H22.3.4没

平成23年度支部総会

平成23年5月15日(日)

楠公会館

JR神戸駅・高速神戸駅
地下鉄大倉山駅下車

楠の新緑が目眩しい五月八日、楠公会館の菊水の間に平成二十二年度佐保会兵庫県支部総会が開催されました。平成卒の若々しい新入会員も加わり六十五名の出席者で三枝瑠子様の司会のもと、賑やかに開会となりました。この一年間の物故者の方(十四名)に黙祷を捧げました。続いて山本よしみ支部長からの挨拶と新入会員の紹介(本年度四十四名)がありその代表として森本宜子様が、大変充実していた大学生活の話、そして佐保会にこれからは意欲的に参加していきたい事など力強いご挨拶でした。

山本よしみ支部長からは、ホームページ研究会を立ち上げた事、今後の佐保会の運営には、パソコンでの発信、受信が必要になってくる事など強調されました。又総会案内状を一一七〇通発送したが半数以上返事がなく、せめて一言でも書いて返事が欲しい事など話されました。続いて、事業報告、会計報告、役員紹介がありました。記念品贈呈では、伊賀正子様のご挨拶されました。続いて秋里三和子様の講演(DVD映写「卒業生から見た母校一〇〇年の歩み」)がありました。

百年の歴史を映像に残すという大変なご尽力、ご苦労に只々感謝でした。

出席者の皆さんはそれぞれの思い出と重ねながら熱心に見入っていました。来賓のご挨拶は菅江謹一先生が黒一点、ご家族の近況とともに日々お元氣にお越しの事を話されました。

その後、並川明子様のご発声で乾杯、会食、歓談、各部報告へと移りました。各部報告では、本部より瀬川順子様、酒居淑子様から佐保会の運営についての更なる積極的取り組みの方針について話がありました。

女子大入學式に新入生に早くも入会を呼びかけて、かなりの方に入会してもらった事、又、外国留学生が増えている中、佐保会ベトナム支部が出来たことなど報告されました。その後内山美智子様ご挨拶で、校歌斉唱へと移り、永田登喜代様の細やかな心くばりのお言葉で閉会しました。



新入会員の挨拶

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
閉会のことば		校歌斉唱	⑥ 二支部長より「第34号編集委員紹介」	⑤ 「睦会」平成22年担当記者紹介	④ ホームページ研究会	③ 「一様の会」	② 佐保短大	① 本部	各部報告		来賓挨拶
DVD映写		「卒業生から見た母校(100年の歩み)」		秋里三和子 姉(S27文卒)	解説		休息		来賓挨拶		
卒後55年のお祝い		記念品贈呈		卒寿のお祝い		議事		新入会員紹介		支部長挨拶	
平成21年度事業報告		平成21年度会計報告		平成21年度会計監査報告		平成22年度役員承認及び紹介		平成22年度事業計画		平成22年度会計予算	
その他		永田登喜代(S45理数)		村田好子(S39家食)		藤岡利子(S38家被)		山本よしみ		永田登喜代	
		村田好子		山本よしみ		山本よしみ		山本よしみ		山本よしみ	

フログラム

講演

「卒業生から見た
母校一〇〇年の歩み」
DVD映写

解説 秋里 三和子氏
(S27文卒)

このDVDは、母校が一〇〇周年を迎えるにあたって卒業生の視点から母校一〇〇年の歩みを映像化し、歴史の一駒、一駒を共有することを願って作成されました。作成には秋里三和子様をはじめ六人の佐保会員の方々があたりました。

内容は【1】奈良女子高等師範学校・奈良女子大学、建物の変遷、授業風景、女高師時代の出来事 【2】学生生活 【3】佐保会から構成され、全上映時間は一時間十五分です。

明治四十二年に全国に二校だけの教員養成を目的とした国立女子高等師範学校として開校され、全国から知事の推薦を受けた優秀な生徒が集まり、全寮制、寮監の厳しい指導のもと規則正しい学生生活を送っていたが、その反面先輩、後輩の繋がりも強く、固い絆の人間関係も築かれた女高師時代。戦後、昭和二十四年に総合大学に変わり、カリキュラムの内容も大きく変化した。寮も昭和三十八年に取り壊され、新しい寮が大学の前に作られ、自由で自主的な学生生活に変化していった大学時代。

全体を通してその時代、時代を一生懸命に生きた先輩、後輩たちの歴史の一駒一駒が映像として映しだされとても印象深く心に残りました。

製作に当たっては、今作らなければ資料が散逸してしまうのではないかとという



製作に当たられた六人の方々に感謝の念が一杯になったDVD映写でした。なお購入希望者は佐保会本部に申し込めば入手できます。(辻本記)



使命感と集めた資料の整理音響やナレーターとの打ち合わせ等大変な苦

ンを通して情報提供するため、会員の方々と努力しています。会員の皆さんの関心が高まり繋がりが深まればこれ以上の喜びはありません。奮ってご参加ください。役員はボランティア活動として、またお世話になった方へのご恩返しのお返しを込めて、仕事しながら自分自身が成長していく喜びを味わっています。最近ではメールを活用しながら仕事をこなしていますが、十分に満足頂ける運営になっているか疑問に思っています。是非、温かい声を聴かせてください。時には、退会希望の声を聞くことがあります。「退会することは大変なことですよ」と申しあげています。奈良の地で共に生活し、励んだ青春の喜びを大切にしたいと思

絆 その二

支部長 山本よしみ (S33家食)

異常気象かな？十度前後の気温の差が、繰り返し押し寄せてくるこの頃、皆さんお変わりございませんか。

佐保会兵庫支部の事務局をすることになって五回目の春を迎えました。加齢と共に体力の衰えを感じる毎日ですが、役員や会員の皆さんに助けられて、今まで責めを果たして参りました。その間いろいろな方々と出会い、懐かしい思い出や楽しい繋がりがりなど身に余る喜びを味わっています。

棟の会の行事には出来るだけ参加して、会員の皆様と思いをひとつにし、楽しく教養を高めています。昨年から、情報社会に生きるための必要条件と思いいホームページ研究会を立ちあげました。様々な方々のご協力をいただきながら、パソコ

三月末のみぞれ混じりの雨の降る日、佐保塾に参加して、浄瑠璃寺と岩船寺に行ってきました。学生時代に訪れた時は、扉の前で手を合わせた浄瑠璃寺の秘仏吉祥天女像にお会い出来ました。美しい極彩色のお姿、ふくよかなお顔に涙ぐんでしまいました。心に語りかける微笑に心が洗われ、五十年前の思いがかないまま。参道や庭に咲くあせび、木蓮、桜、赤いオレンジ色の美しいみつまたの花に見とれるなどして楽しい一日を過ごしました。花に囲まれた仏の里は人の心の奥深く染み透り、明日を生きる力を与えてくれることでしょう。

木津川で

みほとけを拝し

微笑(ほほえみ)に

時を超えて思う

青春の絆

平成二十二年四月末日記す

平成22年度 新入会員名簿

学部	氏名	地区	学部	氏名	地区	学部	氏名	地区
文古代	吉永美帆	西宮市	理化学	山田静香	神戸市北区	生環文	川端昇子	淡路市
文比歴	白石千紗	県外	理学生	山内康子	明石市	生環文	小林春華	宝塚市
文比歴	塚本倫子	県外	理学生	山名文果	神戸市西区	生環文	森本宜子	宝塚市
文社情	松井翔子	神戸市北区	理情	栗生敬子	神戸市東灘区	生環文	山本綾子	芦屋市
文地環	湖上貴代	宝塚市	理情	畑典子	明石市	博前環食	各務恵理菜	神戸市灘区
文教文	原由真	南あわじ市	生環食	帯井上寛子	神戸市須磨区	博前社	尾方志薫	三田市
文人関	月岡寛子	宝塚市	生環健	坂上真央	たつの市	博前人	青木保里	相生市
文スポ	東佳織	明石市	生環健	坂上真央	神戸市須磨区	博前物	青木保里	東灘区
文スポ	太田早紀	明石市	生環衣	尾崎知里	神戸市垂水区	博前物	藤田奈津子	東灘区
文スポ	堀川真那	宝塚市	生環衣	岸本恵子	県外	博前化	久保田涼子	西宮市
理数	加藤三千美	神戸市西区	生環衣	木下実花	尼崎市	博前生	今北麻紀	三田市
理物	稲田美果	加古郡	生環衣	龍美晴	県外	博前生	植西由美	西宮市
理物	萩原美幸	神戸市東灘区	生環住	小原由貴	洲本市	博前情	小堀由貴	加古川市
理化	粟野陽香	神戸市東灘区	生環住	小伊井裕子	明石市	博後共生	小松本泉	神戸市長田区
理化	河田景子	宝塚市	生環住	竹本愛美	三田市			

楫 (ゆずりは) の 会

平成22年・23年 年間行事予定

月 日	内 容	会 場	時 間	講師(敬称略)	備 考
H22.11.25(木)	手芸	神戸市勤労会館	13:00~15:00	都筑久美子	裁縫道具
H23. 2.24(木)	ランチコンサート	ドンク(阪急・岡本)	11:30~15:00	土田 景介 田中 靖子	会費:3,500円
3.24(木)	書道	神戸市勤労会館	13:00~15:00	川口登美子	小筆、半紙など
4.21(木)	文学「古典」	神戸市勤労会館	13:00~15:00	林 茂代	
5.26(木)	新緑の奈良を訪ねて		11:00~		集合:近鉄奈良駅
7.28(木)	食文化 「南蛮料理のルーツ」	神戸市勤労会館	13:00~15:00	片寄眞木子	
9.22(木)	文学「俳句」	神戸市勤労会館	13:00~15:00	古川起与子	
10.27(木)	歴史散歩・明石 「武蔵と人麻呂」		10:30~	埴岡 真弓	集合:明石駅
11.24(木)	美術鑑賞	神戸市立博物館	13:00~15:00	学芸員	解説付き鑑賞

※事情により日時等変更することがあります。 ※入会は随時 佐保会員以外の入会も歓迎 ※会費 年間1,000円、当日のみ参加300円

平成22年度 運営委員

寺田 翠(078-911-5364) 三枝 瑤子(078-252-2848) 山下 知子(078-822-0939) 村田 好子(0794-65-2021)
射延 瑞枝(0794-84-1998) 田中 明子(079-492-0323) 大塚かよ子(079-222-2671) 永田登喜代(079-423-5198)

楫の会 大人の遠足に参加して

瀬 正子(S37家食)

四月十五日、寒の戻りの朝、三宮に集合。ミニバスで加西市の県立フラワースセンターへ。広大でどこかヨーロッパ風の公園。ちょうどチューリップの盛りでした。数の多さに加え、種類の多さ、色調の豊富さ、チューリップの固定観念が覆されました。次に民族学者の柳田国男の生家へ。意外に小さな農家に、優秀な兄弟が育ったことに感動。そして郷土料理のもちむぎうどんの定食を味わい、素朴な食感を楽しみました。最後に日本玩具博物館へ。ちょうど雛飾りの最終期で、典型的な段飾りの豪華さもさりながら、土雛、紙雛などの素朴さに、昔の人の娘への親心を感じました。又、ヨーロッパの玩具、戦後すぐのブリキのままごと道具などしばしば童心に戻り、皆燥いでいます。

楫の会 五歳になりました

射延 瑞枝(S42家被)

平成十七年に佐保婦人学級と若草を母体として、楫の会が誕生して今年から六年目に入ります。お蔭様で年ごとに年会員も増えて来ました。

昨秋には本部の佐保塾との共同企画「須磨琴を聴く会」を、源平ゆかりの須磨寺で行いました。奈良、大阪、京都からも十名余の参加があり、合わせて四十九名となりました。岩城尚子様(S33文国)に心のこもった資料と解説で須磨寺を案内して頂きました。その後、書院にて五人の奏者による須磨琴(二弦琴)を聴き、幽玄の世界にひきこ

まれました。この企画は昨年五月のあの新型インフルエンザの騒動で中止になりましたが、初秋に再度呼びかけ十月に実現できましたので、より印象に残る行事になりました。

また今年二月に三回目を迎えたランチコンサートは回を重ねるごとに、人気の高い企画になってきました。プロの音楽家お二人を迎え独奏と独唱を聴き、上手な歌唱指導のもと、心は乙女に戻って合唱し、楽しくて贅沢なお昼のひとときをすごしました。

他にも美術鑑賞は学芸員の解説を聞いた上で鑑賞しますので、団体での鑑賞ならではの好評です。

文学、食文化、書道、手芸は佐保会員の方に講師をして頂いています。魅力ある講義を受ける度に佐保会の底力を感じます。これからも皆様から企画の提案や講師の紹介などのご協力を頂いて、楫の会が更に充実していきますよう運営委員一同努力いたします。

楫の会はどなたでも、お好きな回だけでも参加できますので、どうぞお気軽に参加下さい。



フラワーセンター(H22.4.15)

ホームページ研究会報告

中村 京子 (S32理物)

インターネットの検索欄に佐保会兵庫支部と書き込み、検索するとホームページが出ます。

樫の会の22年度行事予定表などはここからクリックで探せます。このホームページを使いやすく、親しみのあるものにするために今年H.P.研究会と

平成二十一年度睦会報告

谷口ミサヲ (S41文地)

第三十四回睦会は十一月十四日(土)舞子ホテルで三十五人の出席を得て、開かれました。

前夜からの雨と風、世話人一同気をもみましたが、受付が始まった十一時ごろには雨もやみ、日も差してきたのはほっとしました。

昭和十八年卒竹崎美佐保氏の乾杯の音頭で会食が始まりました。バックミュージックの琴の音に時々耳を傾けながら、各テーブル和氣藹藹と懇談。司会大橋節子氏指導のフラダンスで気分

尼崎西宮合同もより会の報告

田中佳世子 (S40文国)

平成二十一年十一月二十六日西宮ガーデンズ「桜庵」にて、尼崎地区と西宮地区合同のもより会を開催。開業以来盛況の商業施設では長時間の集まりは敬遠され、やむを得ず平日の遅い昼食会となった。交通の便が良いので、また、ガーデンズへ行ってみたいという声もあったので、尼崎地区九人、西

いうのが立ち上げられ、目下いろいろ模索中です。

皆さんの応援をお願いいたします。

追加

各地区だよりは各地区の方々が無料サイト(広告付きですが)を使って作られた最寄り会など地区の情報ページです。このページの作成については、支部長までご連絡下さい。

睦会

転換をはかり、各テーブル代表の数名の方からの近況報告があり、がんばっていらっしやるお姿から元気を頂いたことでした。

十一月生まれの方には菅田英一氏の版画のプレゼントがあり、しばし座が和み全員で校歌を斉唱しながら閉会。あつと言う間の二時間半でした。

母校の記念館絵入りクリアファイルのおみやげを手に、百年の歴史を誇る母校の卒業生として、残された人生をいかに生きていくかを、人それぞれに思い巡らしたひとときでもあったかと思えます。

もより会

宮地区七人が集まる。コラーゲンたっぷりの博多水炊き、その他のかしわ料理をつつきながら、初対面であっても同じ学び舎で学び、同じ町に住む者同士はすぐに打ち解けて話が弾む。本部理事の貴田様から創立百周年記念行事の貴重なお話も聞くことができた。子連れも、現役も参加できるもより会企画できればと返信を読みながら思ったことだ。

平成22年度 もより会 地区リーダー

市・町	氏名	卒業年学部	電話番号	市・町	氏名	卒業年学部	電話番号	
神戸市	東灘区 松本佳代子	S44文 英	078-843-7341	加古川市 東播磨地区	永田登喜代	S45理 数	079-423-5198	
	日笠 憲子	S47家 食	078-822-3381	高砂市	田中 明子	S43文 幼	079-492-0323	
	灘区 松田 洋子	S50家 住	078-843-2280	播磨町 (加古郡)				
	土江 松美	S57家 修食	078-851-9209	稲美町 (加古郡)	三木市 北播磨地区	射延 瑞枝	S42家 被	0794-84-1998
	中央区 川上ミドリ	S46文 修教	078-341-2351	加東市	高階 時子	S48文 国	0795-48-2495	
	兵庫区 古田貴美子	S59家 修被	078-672-0691	多可町 (多可郡)	井上 幸子	S49文 史	079-224-8098	
	北区 西池 節子	S38理 数	078-592-4634	西脇市				
	清水 陽子	S57理 生	078-581-6754	小野市				
須磨区 光上記久子	S35文 幼	078-793-2661	姫路市 西播磨地区	谷本 彰子	S49文 英	0790-22-1069		
大橋 節子	S41文 英	078-792-1440	相生市					
垂水区 香川 昌子	S41文 幼	078-708-6425	赤穂市					
山本 裕子	S52文 国	078-705-0007	たつの市					
西區	山中 邦子	S53文 英	078-991-2506	太子町 (揖保郡)	米田 純子	S40理 動	079-669-1728	
	新小田淑子	S59理 化	078-997-0069	宍粟市				
尼崎市	辻本 久代	S40家 食	06-6489-0147	佐用町 (佐用郡)	森 由紀	S54家 院	079-562-4181	
山城 隆子	S40家 食	06-6491-3467	福崎町 (神崎郡)					
西宮市	田中佳世子	S40文 国	0798-33-0252	市川町 (神崎郡)				
芦屋市	山川 泰子	S41文 国	0798-70-3845	神河町 (神崎郡)	小林 嘉子	S37家 被	079-552-3690	
	山崎古都子	S43家 修住	0797-32-2969	豊岡市 但馬地区				
伊丹市	唐島 幸子	S43文 英	0797-23-3541	朝来市	三角三紀子	S44理 数	0795-70-8111	
	酒居 淑子	S42家 住	072-784-5679	養父市				
宝塚市	中井 昌子	S43家 食	072-781-9482	新温泉町 (美方郡)	由井 弥生	S42家 被	0799-52-0515	
	大槻真紀子	S38家 食	0797-88-3764	香美町 (美方郡)				
川西市	奥山 佳世	S48家 修住	0797-84-2160	三田市 丹有地区	由井 弥生	S42家 被	0799-52-0515	
	萬代千鶴子	S31文 教	072-799-0723	篠山市				
猪名川町 (川辺郡)	前野 静代	S41文 英	072-798-1827	丹波市	由井 弥生	S42家 被	0799-52-0515	
明石市 東播磨地区	寺田 翠	S37文 幼	078-911-5364	洲本市 淡路地区				
	乙武ヨシミ	S44理 動	078-924-3707	淡路市 南あわじ市				

新しい節目に今思うこと

平城遷都一三〇〇年という年に当たり、世相はリーマンショックから始まりトヨタ自動車のリコール、そして政権交代、基地問題の迷走による前首相の辞任など、目まぐるしく動いています。

そこで、さまざまなフィールドでご活躍中の皆様が、今家庭で、社会で、何を感じ、どのように過ごしていらっしゃるのか、身近なところからその思いなどをいろいろな年代の方に綴っていただきました。

絆

大西 翠 (S 31文英)

今年には平城遷都千三百周年に当たり、日本のみならず、世界情勢も大きく変わっていますが、私はこの激動の世にあっても人間にとって変わらない大切なものは絆だと思います。と言うのは二年前の夏、近江聖人と慕われている中江藤樹先生の生地、滋賀県高島市を訪ねる機会に恵まれ、藤樹書院を見学し、先生の教え「致良知」に感動したからです。先生は人は生まれながらに良い心を持っているが、そのままでは曇るので、貌、言、視、聴、思の五事を正して良知に致るのだと述べ、さらに分かりやすく



貌 なごやかな顔で人と接し
言 思いやりのあることばで話し
かけ

視 澄んだ目で物事を見つめ
聴 耳を傾けて人の話を聴く
思 まごころをこめて相手のことを
を思う

と説いています。

私のまわりを見ても、佐保会員や、尼崎の最寄りの公民館での読書仲間や近所の人の中にも先生の教えにかなった立派な方がいられ、係わりを通じて幸せを感じています。

藤樹先生は親孝行でも有名ですが、孝行で家族の絆はより深まりますし、親孝行は現代でも最高の美德の一つであり、時代や地域を越えて変わることなく大切なものは人間の絆だとおもっています。

人生の最終ページに向かって

思ひこと

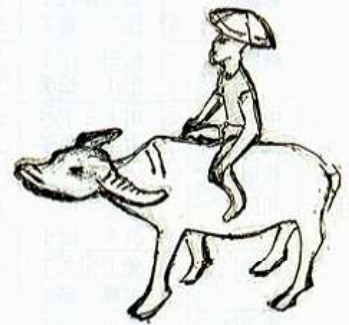
安藤 晴美 (S 32文幼)

今特段の節目を迎えたと思って居る訳ではないが、振り返れば七四歳・人生の最終章に入っていることを考える。

私は幼教であったからか、虐待児に関心が強く、四・五年前から虐待防止活動を行っている『キワニスクラブ』に所属しているが、この活動にも大きな壁があり、次代を担う子供達の健全な成長と幸せを願いつつも、あまりの微力さを痛感せざるを得ない。

何はともあれ今更何かが出来る訳でもなく、最後の日々をすべてに感謝して過ごせることを念願としている。

つい最近七四歳の誕生日の日に、嫁が種類や色とりどりの七〇本のバラを



持って来てくれた。「どうして七〇本？」と聞くと「四捨五入しましたー」「来年は？」「八〇本です」孫達の拍手に胸が熱くなった。

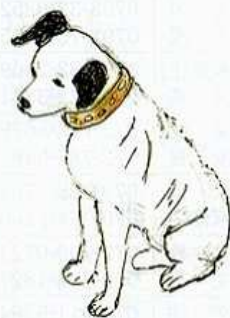
庭の花々を数え、青い空に感動し、身の回りの小さな幸せを沢山見つけて、健康に留意して大勢の友と支えあって、少しでも出来ることがあったらさせていだきながら、次代を見守って行きたいと思う。

背骨の曲がった泥鰌から

佐々木 素子 (S 38文社)

田舎暮らしをしています。播磨の山里に、荒地もあわせて五百坪の土地を買いました。十年間は親の介護をしながら週末だけ通いました。そして七年前に定住しました。

ふり返れば、若い頃から田舎暮らしにつながる道をえらんできた気がします。始まりは、有吉佐和子の「複合汚染」が連載されていた時、当時住んでいた新興住宅地の小川で、長男が背骨の曲がった泥鰌をつかまえてきたこと



です。当時ご近所に声をかけ細々と減農薬野菜の共同購入をはじめました。

又、二年間舞鶴に住んだ時は畑つきの農家を借りて、トマトや苺を作り子供達と興じました。そして十七年前、夫が大病を患い、安全で美味しい野菜が欲しいと切望したのです。第一次産業にあこがれていた夫も、土づくりを楽しんでいきます。水やりしなくても、野菜は水を得ようとしてっかり根を伸ばす。過保護をさげ、保水力のある土づくりが大事!と知ったり、果物作り成功の鍵は、適材適地にあり!と悟ったり、何やら子育てと重なります。

「不便でしょう。よく続くね」といわれます。天井から百足が落ちてきたり、雀蜂に追われたり、畑の網に鹿や蛇がかかっていたり、仰天することは山ほどあります。でも、背骨の曲がった泥鰌以来、私の道が今につながってきた気がして居心地が良いのです。

老いと共に、先々別の暮らしを選択することがあるとしても、これまで辿ってきた道の果てを見定めることにならざるのらうと、ゆったり構えています。



保護司として今思っている

正岡 康子 (S 49 文教)

A君と初めて会ったのは少年院の面接室、「失礼します」と元氣良く挨拶し彼は私の前の椅子に掛けた。「時々やにやするので、失礼な印象を与えるかもしれない」と指導教官から聞かされ、少し身構えていた私は、彼のさわやかな人懐っこい笑顔にほっとし、その後一時間近く話し込んでしまった。その間彼は、軽く握ったこぶしを両膝の上にしちんと置き、背筋を伸ばし礼儀正しく受け応えた。丁寧な字で書かれた手紙を何通か貰った後、無事仮退院した彼とは二十歳になるまで付き合うことになっている。

何らかの理由で「道」を外した少年少女たちは、警察で事情聴取され、審判不開始となる者が75%。残り25%の者は家庭裁判所の審判を経て、①少年院送致②保護観察③児童自立支援施設等への送致④不処分のいずれかになる。全国に53箇所ある少年院はすべて国立施設で、ここに入所する者は約3%、東大より狭き門である。

期待を裏切られ、がっかりすることもしばしば、落ち込むことも多い無償の仕事だが、大学で専攻した心理学を生かせればと保護司を拝命して16年。細々ではあるが、とにかく対象者本人と家族を理解するよう努力し、寄り添い、彼らの立ち直りを祈る日々であ

る。先月末、私に双子の初孫が生まれた。あらためて命を大事にしたいと強く思う。

五十歳を機に思っている

大山 弘美 (S 56 家被)

震災の後、支部だよりの編集のお手伝いをさせていただいてから早いもので十五年が過ぎました。その頃幼児だった末娘もまもなく成人、私も昨年は無事五十歳を迎えることができました。誕生日を機に、この一年はぜひ記念になるような思い出深い年にしたいと思いい、かつての同級生たちに積極的に連絡をとるようにしました。ほぼ三十年ぶりに聞く声も懐かしく、思い出話も盛り上がり、楽しい時間を持つことができました。更年期、老親の介護、子供の独立のことが話題に上ることでこの年齢を自覚することができました。

我が家に於いても昨年は初孫が誕生し、また母親を自宅近くにできた老人施設に呼び寄せるといふ二つの家族に関する出来事がありました。孫との出会で癒され、母の介護問題は自分がこれからどう暮らしていきたいかということを考え直す好機となりました。



やり残している仕事の事を思うとあせる気持ちもありますが、ここはベースを考えながら時間を大切に使うべき時期であると感じています。子育ての責任から解放され自由度が高まったと思ったのも束の間、また少し忙しくなりそうです。幸い職場であるファッション美術館では会員の皆様に援護していただく機会も多く感謝しています。自分の無知を感じ、もっと勉強しなければと思う瞬間、気分は学生時代に戻っています。その感覚を糧に、健康に気を配りつつ、まだまだ精進していきたいと思っています。



子育てに学ぶ

藤野 敦子 (H3 理化)

化学の先生になりたくて奈良女に行ったはずが、先生の勧めもあり九一年に三菱電機に入社し、もうすぐ二十年。人生としても会社生活としても折り返し地点です。現在、先端技術総合研究所で材料開発の仕事をしています。

会社が大好きで自分のペースで仕事をしてきた生活が一変したのは出産後。無事に生まれた感激も束の間、初めて赤ちゃんに触れ、授乳の難しさ、母乳育児の大切さ、おっぱい、抱っここの力を知り、二十四時間休みなしの育児生活がスタートしました。思い切って一年間育児休暇をいただいで育児に専念し、赤ちゃんとの貴重な時間を過ごせました。職場に復帰後は、職場の方々の理解と協力、夫や両親の助けのおかげで、好きな仕事も続けてこられました。日々感謝です。朝は時計を見ながら「早くしなさい！」を連発し、「優しく温かくいつもニコニコお母さん」とは程遠く、ほめることも忘れて怒りすぎたと反省の毎日です。

上の娘はもうすぐ六歳、下の息子は三歳。育児はどのやり方が正しいかなんて答えもなく難しく、自分が育ててもらったように、自分の子供を育てているか、いつも考えて悩みます。それでも子供はおもしろく、かわいいのです。「ママ」と呼ばれる喜び、「お母さん」になれた幸せをかみしめています。母から教えられる事は今も多く、子育て

ては永遠に受け継がれると感じます。子育てから学び気付く事を心に刻み、子供と共に成長して行きたいと思えます。子は宝。子供達の未来が明るくなるよう心から願っています。



「大学全入時代」を迎えて

和田 珠子 (H10 人博生)

昨今、大学生の基礎学力の低下について色々と取り沙汰されています。私の勤務先でも数年前から入学前課題と入学後の補習を導入し、高校までの学習内容の復習をさせるようになりました(ちなみに数学では四則演算からの復習です)。もちろん補習など必要のない学生もいますが、大多数の学生が基礎学力不足というのが現状です。

基礎学力の低い学生に共通するのは「自信が無い」ことではないかと私は感じています。自信とは社会と接して様々な成功や失敗を体験するうちに培われていくものだと思いますが、私が接している学生の多くは、同世代の友人や家族といった非常に狭い世界でしか人間関係を築いていません。その狭い世界の中では自信満々なのですが、

一歩外に出ると途端に自信が無くなってしまふのです。

基礎学力は練習を積み重ねることで個人差はあれ向上します。これは最も簡単な成功体験のほずなのに、彼らの話を聞くと、練習不足のせいで逆に失敗体験の積み上げになってしまい、ひいては自信の無さにつながっているように思えます。

彼らは自分の好きなことに関しては大変な情熱を注いでいて、驚くほどの知識を持ち、素晴らしい集中力を見せてくれます。その力を社会に役立つ形で発揮させるには、まず彼らが社会に踏み出す自信を持てるようにしなくてはなりません。社会の一員としての自覚と自信を育てることが、全入時代の大学の一つの役割かもしれない、などと考えるこの頃です。



大学で得たかけがえのないもの

林 真希 (H19 文比歴)

今年で教師生活四年目を迎えました。まだまだ分からないことや悩むことも多いですが、そんな時、いつも奈良女子大学で学んだことを思い出します。



私は、大学二年のとき、子供が好きなということ、職業選択の一つになればという軽い気持ちで、教員免許を取り始めました。大学の附属小学校で教育実習を受けさせていただいたとき、私の思い描いていた教育とは全く違う光景がそこにはありました。子どもたちが自主的に授業に取り組み姿や疑問を自分たちの力で解決しようとする姿に驚きました。教師は、決して答えを教えるだけの存在ではないことを知りました。だからこそ、そこには、どの子も生き生きと目を輝かせ自分達で授業を作り上げていく、まさに「生きる力」を持つ子どもたちがありました。私は、教育実習で、「教育」とは何が少し感じ取ることができました。

あれから四年が経ち、私は今小学校の教師として毎日子どもたちと向き合い奮闘しています。理想と現実はずいぶん違い、落ち込むこともあります。しかし、「教育」とは何が一生涯かけても答えは見つからないかもしれませんが、大学時代で得たかけがえのない経験をもとに、これからはがんばってきたいと思っています。

さし絵：佐藤すなほ (S19 家)

山城 隆子 (S40 家食)

短歌

竹崎美佐保 (S 18文)

阿修羅像広らかに展示され方目浴ぶ
仰がるれども種なくいとし

若かりし日に一人来て逢ひ初めし
阿修羅の眉の淡きかぎろひ

早緑もどりの野路・甘草かんそうほろにがき
春の味秘めて庭蔭に生ふ

切り花の紫陽花かかえ来る人の
顔隠るまで大きな花穂

いつどこでも覚えなき失せ物を
探すのは止す出るときは出る



短歌

山城 隆子 (S 40家食)

激戦の最後の地には風ばかり
父よ摩文仁まぶんの何処に眠る

生きた証は何ひとつ無き我が父は
平和の礎いしに名を残すのみ

幼らを負ひて戦場逃げし
母の細き手足よ今萎えてあり

母の香の日毎うすれていく部屋よ
テレビの上の一休の像

打ち寄せる波にサバニは揺れ揺れて
浜辺は午睡の時に入りたり



俳句

建林 彩花 (S 38家被)

立春や指に確かな脈の音

万緑を揺さぶる経や友葬る

不揃ひの果実酒の瓶祭笛

稲妻やベンチにひとつ野球帽

削られし山肌白き寒さかな



川柳

長岡 加代 (S 33理数)

占ってみたい未来がまだあった

フライドが元氣な振りをして困る

パンザイの指から洩れてくる疑問

動じない女と見られ損いくつ

スランプでふと傾いただけのこと

川柳

藤岡 利子 (S 38家被)

困ったら鏡の顔に問うてみる

振り向けば昨日の私もう居ない

ケータイに家の電話が欠伸する

白髪染め薄れて席を譲られる

すぐばれる嘘だからこそ言うてみる

尼崎案内

歴史を通して



私達の住む尼崎は地図に示したように阪神・JR・阪急電鉄が東西に走り何処へ行くにも便利で、古くから城下町として栄えたのは主に阪神路線周辺です。市の南北を流れる二本の川、東は猪名川とその下流の神崎川、西は武庫川、これらの川の三角州として陸地化していったのです。

万葉集にも猪名川、武庫川にかかわる歌がありますが何れも旅の出発点、帰着点、通過点として位置づけられているようで、これは今も変わりません。そんな視点から尼崎の歴史を少しひもといていきます。

古代 栄えた農漁業と交通の拠点

約五千年前、今の市域の大半は阪急神戸線付近が海岸線だったと考えられ、地名に海辺をしのばせるものが多いのまじりです。近年発見された田能遺跡からは縄文の終わり頃から農耕生活の形跡

中世 戦場の地

平安末期、平家全盛時代には福原遷都の際の宿泊にも利用された豪華な貴族別荘「寺江亭」も築かれ平家物語にも賑わった様子が記されています。中国船も来港し多くの人や物資がもたらされ港町とし



頃、流刑の途中立ち寄った法然上人と五人の遊女の話が残っています。今でも神崎川の近くに遊女塚がひっそりと佇んでいます。

近世 城下町と庶民の文化

江戸時代に入り大阪防衛の西の要として尼崎築城が行われ同時にまち作りの為の地域の拡張、整備が進められ尼崎各地に散在していた寺を一ヶ所に集め「寺町」が形成されました。経済活動も活発になるにつれ街道の整備も進み道標や川を越える所には渡し場が設けられました。漁業も最盛期を迎え肥料用の鰯を求め関東まで出漁、魚市場では西日本一円まで取引が広まりました。農業では川の水路

が確認されています。奈良時代に入り各地に寺社や貴族の荘園が広がっていき、平安時代には尼崎市内の土地は殆ど貴族、社寺の荘園となりました。農業、漁業も盛んに行われ、果物、魚介類を船で都へ運んでいました。七八五年(延暦四年)神崎川と淀川の間水路が開通すると神崎川の船の通行量が急増します。これは京の都から瀬戸内海を通り西国を結ぶ交通路を確保する為のもので、海船と川船の乗客や荷物を積みかえる所として「河尻の泊」と呼ばれる尼崎の港は大きな役割を果たします。多くの人が行き交うようになり天下第一の港と称され、人々の出会いと別れのドラマも多くの歌に残されています。この頃の言い伝えとして、流刑の途中立ち寄った法然上人と五人の遊女の話が残っています。

が整備され米だけでなく綿、菜種など商品作物の栽培も盛んになりました。この頃に活躍し「曾根崎心中」や「冥土の飛脚」など多くの名作を遺したのが劇作家近松門左衛門です。久々知の広濟寺を度々訪れ寺の再建に尽力しました。

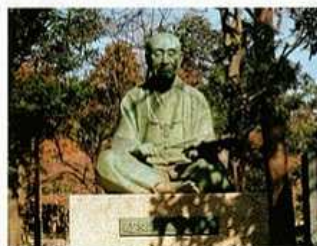
同寺に国指定史跡の近松の墓が残されている他、隣の近松記念館では所縁の品々が展示されています。

近・現代 商工の街

明治維新と共に尼崎藩は兵庫県となり、明治中期には尼崎にも工場が建ち始め鉄道も敷設されていきます。第一次世界大戦の頃から更に工場がふえ昭和の初めには阪神工業地帯の中核を担う「鉄と電力の町」へと変貌、第二次世界大戦では大きな被害を受けましたが戦後間もなく商店街から復興が始まります。一時落ちこみびそれにつれ工場や労働者が集中し交通量も増加。一九六〇年頃から尼崎南部を中心に工場煤煙による大気汚染が深刻化し相まって工業用水の汲み上げによる地盤沈下、国道や阪神高速を通る自動車の排気ガス、更に騒音と高度成長期を通じて様々な問題が噴出していった事はよくご存知のことでしょう。

過去の歴史の中で育まれた不屈の尼崎魂で数々の問題に取り組み、乗り越えて二十一世紀の未来は明るい、人々の行き交う道となることを願っています。

實方充代 (S32文幼)



尼崎・見どころとメイドイン・尼崎グッズ

【寺町】

城下町の面影を今に伝え、落ち着いたたずまいの寺町は、阪神尼崎駅から南西に徒歩数分のところにあります。戸田氏の菩提寺である「全昌寺」、法華宗大本山「本興寺」、節分の豆まきや奉納狂言で有名な「大覚寺」など十一カ寺があり、国指定の重要文化財七件のほか、市指定の文化財も数多くあって充実した内容です。ボランティアガイドを頼むこともできます。

【貫布瀬(きぶん)神社】

八月一、二日に斎行される「だんじりまつり」は尼崎の夏の風物詩の一つです。勇壮な太鼓とお囃子の音に乗って、二台の地車(だんじり)が向かい合い、ぶつかりあう「山合わせ」は観客を魅了します。水神として多くの信仰を集め、尼崎藩主の崇敬も厚かった神社です。
(阪神「出屋敷駅」東徒歩五分)

【運河と尼ロック】

(尼崎閘門)

尼崎港にみられる「北堀運河」「中堀運河」「西堀運河」「東堀運河」の四運河は一九三四(昭和九)年から一九四二(昭和一七)年に建設され、工都として栄えた尼崎の水運の要となっていました。水上輸送の役割が低下した今、水質も改善された運河は自然豊かな水辺に甦りました。アメニティ空間として、水辺の散策や運河クルージングなどを楽しむことができます。

地盤沈下や台風襲来時の高潮による浸

水を教訓として、

臨海部には高い防波堤が築かれ、船の出入口にはパナマ式閘門が造られました。海水が水位の低い運河内へ流れ込むことを防ぎながら船を航行させる、ハイテク技術を利用した近代設備が街を守っています。



運河クルージング

【ユニチカ尼崎記念館】

江戸時代には「阪上綿」という最上質綿の産地であったこの地域に、明治中期に最初の工場である尼崎紡績会社(現在のユニチカ)が創設されました。一九〇〇(明治三三)年に本社事務所として建設された煉瓦造りの洋風建築は、記念館として創業当時の貴重な資料を残しています。東京オリンピック金メダルの「東洋の魔女」の活躍ぶりが懐かしく甦る写真展示もあります。
(阪神「大物駅」南東徒歩八分)



ユニチカ記念館

【巨大商店街】

(尼崎中央・三和・出屋敷商店街)

阪神尼崎駅から出屋敷周辺にかけて広がる大規模なアーケード街で、東西南北

に計二km、約六〇〇軒の店が連なった活気ある買い物のメッカです。戦後まもなくの闇市がルーツのようですが、「三和に行ったら何でも揃う」との評判で、尼崎周辺の町からも買い物が訪れて賑わいを増してきました。

尼崎に漁港があった江戸時代創業の天ぷら、伝統的な尼の生揚げ醤油、老舗の自家製漬物、豆腐、お茶、手焼きの鯛焼、量り売りの乾物、沖縄や韓国の食品など



商店街ツアー

尼崎の歴史を物語る逸品が数々あり、店ごとのこだわりと会話が面白い物を楽しみさせる魅力にあふれています。路面に尼崎出身有名人の手形があったり、阪神タイガース優勝までのマジックが日本一早く掲示されるというユニークな見所もあります。

【ピッコロシアター】

(県立尼崎青少年創造劇場)

青少年の芸術文化創造活動支援のため、一九七八年に開館された施設です。全国初の県立ピッコロ劇団は質の高い演劇を数多く公演し、ピッコロ演劇学校、ピッコロ舞台技術学校が併設されているという独自性もあります。
(阪急・JR「塚口駅」から徒歩八分)

【尼いも】

地元で暮らす住民の多くが懐かしく思いうす食べ物の一つに「尼いも」があります。江戸から昭和初期にかけて臨海部

の新田地帯で相当量が栽培され、高級品として京都・大阪の料亭にも出荷されていました。細長くて皮が赤く、とても美味しかったと年配の方々は口を揃えます。しかし、一九三四(昭和九)年の室戸台風や一九五〇年のジェーン台風による高潮災害で打撃を受け、尼いもは壊滅しました。二〇〇一年頃から、尼いも再生をめざす市民グループ(尼いもクラブ)が発足し、かつての尼いもに近い品種を特定、苗を入手して栽培し、二〇〇三年に復活宣言。苗を希望の会員に配布しているのを育て、秋には収穫して尼いも料理を市民が味わうことが出来るイベントも開催されるようになりました。幼稚園や小学校では食育の実践にも役立ち、子ども達にも好評です。

ものづくりのまち尼崎のすぐれた産品をアピールしようとの試みで、二〇〇三年から「メイドインアマガサキコンペ」が行われ、グランプリに輝いた商品には「マルカの湯たんぽ」「柘干に代表される天ぷら」「菰樽」「ひろたのぼんず」「薄板ばね」「近松豆腐」「昆布ドレッシング」「小粒のたい焼き」「手づくりベーコン」「工場野菜」「すべらんセラルミ(滑り止めステップ)」などがあり、認証品を集めたセレクトショップが三和本通商店街(前述)と尼センデパート内にあります。



尼いもいも掘り

【メイド・イン・尼崎グッズ】

片寄真木子(S36家食)

平成22年度 佐保会兵庫県支部役員

役職名	氏名	卒業年学部学科	住所
支部長	山本よしみ	S33家食	神戸市西区
副支部長	永田登喜代	S45理数	加古川市
事務局	三枝 瑤子	S38文英	神戸市中央区
	山下 知子	S39理物	神戸市東灘区
	村田 好子	S39家食	小野市
	古山美智子	S40理数	神戸市西区
樫の会	寺田 翠	S37文幼	明石市
	三枝 瑤子	S38文英	神戸市中央区
	山下 知子	S39理物	神戸市東灘区
	村田 好子	S39家食	小野市
	射延 瑞枝	S42家被	三木市
	田中 明子	S43文幼	加古郡稲美町
	大塚かよ子	S44文幼	姫路市
	永田登喜代	S45理数	加古川市
ホームページ研究会	中村 京子	S32理物	神戸市東灘区
	鈴木 久子	S37家食	尼崎市
	藤岡 利子	S38家被	尼崎市
	衣笠 弘美	S41文体	神戸市北区
	桂 美穂子	S46理植	姫路市
	高階 時子	S48文国	加東市
	杉本 香織	H21博前環	姫路市
	實方 充代	S32文幼	尼崎市
会計監査	中田 秀子	S37文幼	加古川市
	貴田 康乃	S29家住	西宮市
本部理事	瀬川 順子	S41文英	神戸市中央区
	酒居 淑子	S42家住	伊丹市
本部監事 本部評議員	山本よしみ	S33家食	神戸市西区
	鈴木 久子	S37家食	尼崎市
	三枝 瑤子	S38文英	神戸市中央区
	川口登美子	S39家食	川西市
大学女性協会	大林 冷子	S33家被	尼崎市
	唐島 幸子	S43文英	芦屋市

*「支部だより」第35号 西宮市担当

23年1月8日(土)

支部だより引き継ぎ会(楠公会館)

11月14日(日)

「睦会」(新神戸アナクラウンホテル、昭和42年卒業生担当)

11月1日(月)

第34号「支部だより」発行(尼崎市担当)

8月26日(木)

地区リーダー会(神戸市勤労会館)

5月8日(土)

支部役員会(神戸市勤労会館)

平成22年度事業計画

平成22年4月4日(日)

4月1日(水)

支部役員会(神戸市勤労会館)

22年1月9日(土)

支部だより引き継ぎ会(楠公会館)

11月14日(土)

「睦会」(舞子ホテル、昭和41年卒業生担当)

11月1日(日)

第33号「支部だより」発行(西播磨地区担当)

8月27日(木)

地区リーダー会(神戸市勤労会館)

5月9日(土)

支部役員会(神戸市勤労会館)

平成21年度事業報告

平成21年4月1日(水)

平成21年度会計報告並びに平成22年度会計予算

支出の部

科目名	平成21年度決算	平成22年度予算	
本部会費	892,500	900,000	
總會補助費	90,884	150,000	
通信費	231,015	250,000	
印刷費	50,190	60,000	
交通費	68,580	80,000	
事業費	名簿印刷費(積立)	0	
	名簿送料	0	
	支部便り印刷費	200,000	200,000
	睦会補助	50,000	50,000
	樫の会	90,000	90,000
	ホームページ研究会	70,000	30,000
	リーダー会経費	40,720	70,000
最寄会補助	86,600	110,000	
慶弔費	65,120	100,000	
事務費	117,755	160,000	
予備費	0	90,000	
小計	2,053,364	2,340,000	
次年度繰越	4,509,250	4,429,750	
合計	6,562,614	6,769,750	

収入の部

科目名	平成21年度決算	平成22年度予算
会費	2,227,500	2,200,000
内 本部会費	892,500	900,000
訳 支部会費	1,335,000	1,300,000
貯金利息	6,364	500
本部より補助	74,080	60,000
雑収入	100,000	0
寄付	75,000	0
小計	2,482,944	2,260,500
前年度繰越	4,079,670	4,509,250
合計	6,562,614	6,769,750

編集後記

佐保会兵庫県支部だより34号をお届けする事ができました。今年には異常気象にはじまり、昨年に引き続き政権交代による政治への関心の高まり、上海万博、平城遷都1300年、基地問題の迷走等々、様々なことが起こりました。私達編集委員も時に笑いに包まれ、時に日本の未来に思いを馳せ、ケンケンガクガク時の経つのを忘れる事も度々でした。原稿依頼に快く執筆して下さい下さった方々に厚くお礼申し上げます。不備な点多々あると思いますが、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成22年 錦秋

〔編集委員：大林、片寄、實方、鈴木 辻本、藤岡、正岡、山城〕

資産内訳 (平成22年3月31日現在)

定額郵便貯金	2,450,000円
郵便貯金	878,165円
振替貯金	915,429円
現金	265,656円
合計	4,509,250円